

専守防衛 完全に逸脱

岸田政権が安全保障政策の指針「国家安全保障戦略」など三文書改定を閣議決定するのを前に、岸田文雄幹事長が会長を務める国民統派團「宏池会」前会長の古賀誠元幹事長(67)が本紙のインタビューに応じた。文書に盛り込まれる攻撃能力（敵基地攻撃能力）の保有に懸念を示し「完全に専守防衛を逸脱してしまった」と主張。師弟関係にあつた両相手は「少なからずとも国民にあらへると説明しなければならない」と注文した。

(坂田泰央)

敵基地攻撃 保有に懸念

古賀氏は、ロシアによるウクライナ侵攻や台湾有事の懸念、北朝鮮の核開発など、安全保障環境の変化は認めつつ「それで、なぜ敵基地攻撃能力を持つミサイル（保有）につながるのか。抑止力になるのか」と疑問視。

「保有すれば実質的に専守防衛という基本がなくなり、憲法九条も翻かされるのではないか」と語った。



安保政策について話す自民党の古賀誠元幹事長=東京都千代田区で

古賀元幹事長インタビュー

古賀氏は幼少時、太平洋戦争でフィリピンに出征した父を失った経験から「戦争につながる」として異を唱える。攻撃能力（敵基地攻撃能力）の保有に懸念を示すとともに、「あの戦争がいかに愚かだったかを語り伝えていきたい」と話す。

「日本が敵基地攻撃能力を保有する」となる。「これは（戦後の安全保障政策）大きな転換だ。安全保障を取り巻く環境が大きく変わり、何とかしなければならない」と考えた國會議員の気持を理解できる。しかし「三文書の改定を持てば、完全に専守防衛を逸脱してしまうのではないか。抑止力よりも不安のほうが大きくなるのではないかと懸念している」

「が・ま」と1940年、福岡県生まれ。80年衆院選で初当選、通算10期。連続相、国民党内審議員、幹事長などを歴任し、2012年に議員を引退した。政治家業の柱に「平和」を掲げ、日本退族会会長も務めた。03年、イラクに国際隊を派遣するためのイラク復興支援特措法案の衆院採決では出席した。

「た」と強調。「國主義」つながりは他の分野でやれる。人が多いあるはずの、冷静な議論が必要だ。例えば安全保障で一番大事なのは人口を増やすこと。子どもが増えることが一番

長いと強調した。

宏池会は戦後の「終戦記念日」も重視した。吉田茂は1951年まで会長を六年務め、首相を務めた。例えは安全保障で一番大事なのは人口を増やすこと。子どもが増えることが一番長いと強調した。

宏池会は戦後の「終戦記念日」も重視した。吉田茂は1951年まで会長を六年務め、首相を務めた。例えは安全保障で一番大事なのは人口を増やすこと。子どもが増えることが一番長いと強調した。

の抑止力となる」と訴えた。

宏池会は戦後の「終戦記念日」も重視した。吉田茂は1951年まで会長を六年務め、首相を務めた。例えは安全保障で一番大事なのは人口を増やすこと。子どもが増えることが一番長いと強調した。

一問一答

――岸田政権をどう見る。
「安倍政権のツケ」と書つるのはまだが、大変な時にかけ取りをさせられていると思う。懸念を払拭するよう、どうじつけ順（議論）で今に至ったのか真実を語つてもいいたい」

戦争 体験したからこそ平和伝える

――財源問題が注目されていながら、それまでの議論は十分だったか。

「平和憲法がある以上、敵基地攻撃能力のある兵器

世代がほほいになり、安保政策のかじ取りを不安心する声もある。

「戦争がいかに愚かで、いかに多くの人たちが苦しみ、血と涙を流したか、といふ」とを僕は体で知っている。体験しているからこそ、自分の考える平和を普に続けてこきたいし、国政に携わるすべての人々に語り伝えたい。これからが本筋だ」